



地域医療連携 News

認知症疾患医療センター研修会オンライン開催

精神看護専門看護師 竹原 歩

2011年、兵庫県立姫路循環器病センターに認知症疾患医療センターが開設されました。認知症疾患医療センターは認知症疾患の鑑別診断、地域医療機関の紹介、市民の方々や専門職からの相談窓口となる専門医療機関です。認知症患者さんとそのご家族が、住み慣れた地域で安心して生活していただくことを目的に活動しています。

例年、認知症にかかわる専門職対象の研修会を開催してきましたが、今年度は新型コロナウイルス感染症の影響で予定していた第1・2回研修会を中止せざるを得なくなりました。しかし、第3回はオンライン配信の準備を整え、9月11日金曜日に「認知症病棟におけるチーム医療と看護」をテーマに開催しました。パソコンやスマホがあれば気軽に参加できる一方で、デバイスやインターネット環境など参加準備が必要になってしまうデメリットも考えられましたが、今回は17施設、約92名のご参加をいただきました。

今回の研修会の話題提供は私が務めさせていただきました。認知症病棟には医師、看護師、心理士、作業療法士、看護補助者などさまざまな職種が務めています。認知症患者さんにとって安心で居心地のよい療養環境を入院生活、地域生活のなかで整えていくプロセスにおける多職種協働についてお話しさせていただきました。

新型コロナウイルス感染症以後の新しい生活様式での研修会のあり方について、関係機関の皆さまのご意見を参考に検討を重ねています。ご興味・ご関心のある方は認知症疾患医療センターのホームページ (<http://www.hbhc.jp/section/ninchi/about.html>) をご覧ください。

第5回認知症疾患医療センター研修会のお知らせ

日時：12月11日（金）19:00～20:30

研修内容：認知症と車の運転

講師：兵庫県警察本部交通部運転免許課課長補佐 川端 美紀
上席係長 富士原 智



※ オンライン開催、もしくはハイブリッド開催（会場開催およびオンライン開催の併用）を検討中です。

Contents

認知症疾患医療センター研修会オンライン開催

- 昭和、平成、令和へと新たな時代とともに
- 「心臓リハビリテーション優良プログラム施設」認定！
- 新・入院支援センター紹介
- 薬剤部の病院での役割
- 地域医療連携課について

昭和、平成、令和へと新たな時代とともに

リハビリテーション部 課長 井貫 博詞

「リハビリテーション」、今では「リハビリ」という言葉でお茶の間にも浸透しています。しかしながら昭和の時代、「リハビリテーション」という言葉を聞いても（それって何？）という人が多数派でした。

昭和 56（1981）年 7 月に診療が始まった当センターもリハビリテーションという言葉は無く「理学診療科」の標榜でした。もちろん医療の現場のなかでは、リハビリテーションという言葉は徐々に浸透しており、当センターも脳卒中の患者さんを中心としたリハビリテーションを実施していました。ただ世間でのリハビリテーションの認知度は低いままであり、リハビリテーションを行う療法士も少なく、開院 10 周年を迎えても理学療法士 3 名、言語聴覚士 2 名、心理判定員 1 名のままでした（写真 1）。

平成の時代になると、リハビリテーションという言葉の認知度も高まり、平成 9（1997）年には「理学診療科」から「リハビリテーション科」へと診療科の標榜が変更されました。ただ「リハビリ」の言葉の広がりとともに、「リハビリはきつい、痛い」という負のイメージも広がり残念な思いがしました。

平成 14（2002）年 4 月には、隣接の県立高齢者脳機能研究センター（現新館）と統合され、療法士も理学療法士 3 名、作業療法士 2 名、言語聴覚士 3 名、心理判定員 2 名の体制になりました。さらに平成 16（2004）年 6 月からは、心疾患の患者さんに対し心臓リハビリテーションへの介入も始まりました。医師、看護師、リハビリテーション専門職等、多職種で患者さんに介入をすることは大変重要であり今も継続されています。現在は、脳卒中や整形疾患のリハビリテーションの認知度は高まりましたが、「心臓の悪い人にリハビリしていいの?」と、まだまだ「心臓リハビリテーション」の認知度は低い状況です。本稿を読んでいただいている皆様には、心臓リハビリテーションを広めていただきたく存じます。

平成の終わりの年であり、令和の始まりの年である平成 31（2019）年 4 月、診療部のリハビリテーション科から独立する形でリハビリテーション部が設置されました。現在では、医師の本多部長を先頭に理学療法士 13 名、作業療法士 5 名、言語聴覚士 3 名、心理判定員 3 名の大所帯となりました（非常勤職員含む、写真 2）。

責任ある組織として、急性期病院として「リハビリはきつい、痛い」という負のイメージから脱却し、「リハビリ」して良かったと思っただけの明るいイメージが広がるように、新たな時代とともに専門職として良質なリハビリテーションサービスを提供していきたいと思えます。



写真 1



写真 2

この度、当センターが心臓リハビリテーション優良プログラム施設（以下、優良プログラム施設）の認定を受けましたので、その報告をさせていただきます。

リハビリテーション部 部長 本多 祐

優良プログラム施設とは

優良な包括的心臓リハビリテーションプログラムの運用により国民の健康・福祉に貢献しているものと、日本心臓リハビリテーション学会が認定する施設であります。その要件として、学会が認定した有資格者の一定数以上の在勤、心肺運動負荷試験の施行件数や外来心臓リハビリテーション参加者数などの10項目があり、中でも学会事業のレジストリに原則として全例登録を行う事が最も高いハードルとなっています。今回の認定は、現場スタッフの尽力のみならず、データ入力などの作業に従事する医療秘書の貢献度も高く、one teamの総合力が評価されたものと解釈しています。今回いただいた認定証のシリアルナンバーは17番でした。昨年までの認定施設に兵庫県の施設はなかったので、県内初の認定になりました。



「心臓リハビリテーション優良プログラム施設」認定！

看板に甘んじることなく

以上のように、非常に名誉ある看板を頂戴しました。しかし、某ドラマの台詞にもありましたが、「会社は看板ではなく中身である」と思います。折しも、昨年末に循環器病対策基本法が施行されました。その基本理念には、循環器病患者に対する良質かつ適切なリハビリテーションを、継続的かつ総合的に提供することが明記されています。今後も、基本法の目的である循環器病の予防や健康寿命の延伸に向け、新病院を見据えた急性期病院としての新しいシステムの導入、そして地域におけるシームレスな心臓リハビリテーションの連携体制の構築に努める所存であります。皆様の一層のご理解ご協力の程、宜しくお願い申し上げます。



入院支援センター紹介

看護師長（入院支援担当）
大下ひろみ

入院支援体制を整備し、10月入院支援センター指示書の運用開始！

入院支援センターは新病院・患者支援部門を想定して、多職種連携で患者・家族・医療者の安全・安心を守るために、環境整備と機能の拡大を進めています。



新型コロナウイルスの非常事態が続く中、感染対策の一環として5月18日から入院予定の全患者に「まいにち体調チェック」実施の病院決定を受け、入院支援センターでの感染予防の説明と「入院前日・電話訪問」を開始しました。それに伴い、4月当初予定していた循環器内科・心臓血管外科病棟看護師3人（日替）の勤務応援研修を開始し、6月からは本格的に入院支援専従看護師と病棟看護師による入院時支援体制になりました。

7月入院支援センターの面談室を5室整備し、予約枠を10枠から17枠に拡大しました。

8月からは、入院支援の対象を「全診療科の定期入院」に拡大し、毎月約200人の多職種による入院時支援（持参薬鑑定・栄養指導を含む）を実施しています。



10月1日から全診療科で「入院支援センター指示書」の運用を開始しました。

外来診察室で作成した指示書を、入院支援センター医師事務作業補助者が「検査予約」・「入院決定オーダー」を代行し、検査日・入院支援日の予約・調整しています。

入院時支援は、栄養管理・薬剤管理をはじめとして入院中の安全管理に直結しています。

- ① 落ち着いた環境で患者・家族のそれぞれの不安に対応し入院治療の心構えができる
また、病棟看護師が入院中に予測できることを説明し対応策や家族へ協力依頼できる
- ② 入院支援看護師は、多職種と連携し、外来と病棟・退院調整看護師に橋渡しができる
- ③ 今後指示書の運用に伴い、外来診療業務の一部を入院支援センターへ移行し、外来待ち時間の短縮や業務の負担軽減につながる事が期待できる

毎日が試行錯誤ではありますが、日々の多職種による入院時支援が円滑に進められるよう、新病院準備の課題に向けて1つ1つ丁寧に実践と改善を積み重ねていきたいと考えています。



入院支援センター看護師と薬剤師(日替わり)



栄養士（フル稼働）

病院薬剤師の役割

薬剤部
谷垣 雄都

石原さとみさんが演じる病院薬剤師が活躍する連続ドラマ『アンサング・シンデレラ 病院薬剤師の処方箋』が放送され、私たち病院薬剤師への関心も高まっているのではないのでしょうか。ドラマでも描かれているように、病院の中での薬剤師の役割は調剤だけにとどまらず、患者様に良質な医療を提供するために薬に関する様々な業務を行っています。そこで今回は私たち病院薬剤師の役割についてご紹介したいと思います。

当センターの薬剤部では、業務時間内はピリッとした雰囲気、業務時間外は和気あいあいとした雰囲気の中で日々過ごしています。調剤室の中では処方箋に基づいた調剤、抗がん剤や治療薬の調製、薬局窓口での薬剤交付を行っています。医薬品情報についても常にアップデートし、それらを電子カルテ上で閲覧出来るようにしています。一方で、薬剤管理指導業務をはじめとした調剤室の外での活躍の幅も広がっています。ICT（感染対策チーム）やNST（栄養サポートチーム）といったチーム医療や心臓病・糖尿病についての患者教室の開催も積極的に行っており、医薬品を介して医療従事者や患者様と関わることで、医薬品の適正使用・安心安全な医療の提供に貢献しています。

また、製鉄記念広畑病院との統合・再編に向け、両病院の薬剤部間で人材交流を進めています。私も1年目の薬剤師として、医薬品について自信を持って患者や医療関係者にプレゼンテーションできるような薬剤師を目指し、日々学んでいます。2022年に予定されている新病院の開院に向けて一層結束を固め頑張っていきたいと思っています。



地域医療連携課について

地域医療連携課長
三木 智美

当センターの地域医療連携課は、地域の医療機関や保健・福祉サービス機関との「地域医療連携の窓口」となり、患者さんに切れ目のない医療・看護・介護サービスが提供できるよう支援・調整を行う課です。今回は、地域医療連携課の主な業務についてご紹介させていただきます。

1. 医療連携に関すること

- 初診紹介患者の FAX 予約
- 放射線検査（CT・MRI・RI・冠動脈MRI）の FAX 予約
- 返書管理
- 地域連携パスの窓口業務
（脳卒中・心筋梗塞・糖尿病・がん）
- 医療機関情報・転院に関する情報提供
- 地域医療支援：派遣医師による専門診療
- 地域の医療介護機関との連携会議

今年の 9 月から、土曜日午前（9:00～12:00）の FAX 予約受付を開始しました。FAX 予約は、患者さんが来院されるまでにカルテが用意できるため、患者さんの待ち時間が短縮されます。ぜひ、ご利用ください。

2. 入院および外来患者さんの支援に関すること

- 退院支援の促進活動と退院調整
（地域の医療介護機関との情報提供やカンファレンス）
- 医療福祉相談や認知症疾患医療センターの相談業務



3. 健康・療養生活に関する普及活動と地域への情報の発信

- 広報 ホームページ、地域連携 News、診療案内
- 循環器疾患予防フォーラム、認知症疾患予防フォーラム、患者教室など健康増進普及活動
- 公開講座や学術講演会などを通しての医療従事者への情報の発信
- 地域連携懇談会、訪問看護ステーション交流会と意見交換会

今年度は、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、様々なイベントが中止になりました。

こんな時期だからこそ地域の医療機関・関連機関の窓口となり、迅速な診療の調整や患者さん・ご家族の医療相談・退院支援を医療チームと連携して行い、安心できる医療の提供に努めてまいります。よろしく願いいたします。

患者さんのご紹介をいただく先生方へ

紹介患者さんの待ち時間短縮をはかるために、「FAX 初診紹介予約」を行っております。

当センター専用の FAX 用紙に必要事項をご記入の上

FAX していただければ事前に予約調整をさせていただきます。

詳しい内容はホームページ (<http://www.hbhc.jp>) をご覧ください。



兵庫県立姫路循環器病センター

受付時間：9:00～19:00（月曜日～金曜日）

9:00～12:00（土曜日）

※但し、祝日は除く

TEL：079-293-3131(代表) ・ 079-295-7011 (予約専用)

FAX：079-295-8162(地域医療連携課 FAX は 24 時間稼働しています)

